

# 三年学年だより

No. 2

5月号

令和5年5月発行

301HR

## — お米にまつわる話 —

5月2日は雑節の一つである「八十八夜」でした。八十八夜は、立春から数えて88日目の日です。稲作においては、苗代に種もみをまく日と定めている地域も多く、今年一年の米作りがいよいよスタートする日として重視されてきました。ちなみに、88歳のお祝いに米寿という言葉がありますが、「米」の字の分解が「八十八」になることに由来していることは、みなさんご存知だと思います。八十八夜が、米に関係しているのも、今が発芽に適した気温だからでしょう。

さて、米ということで、私が高校教員になったばかりの話をします。私の教員生活は、愛媛県ではなく、日本の豪雪地帯に指定され、8月にスノーボードを楽しめるような米の一大産地に位置する高校から始まりました。そのような立地ということもあり、一家で田植え、稲刈り、雪下ろしをする日には、生徒の公欠が認められていました。一家で田植え、稲刈りと聞けば、純朴で素直な生徒が多いと思いきや、その学校はと〜〜〜ってもやんちゃで個性的な生徒に溢れていました。当時、「ごくせん」というドラマが放映されていましたが、現実が「ごくせん」のドラマのような日々でした。

その場所で、6月の県総体が終わり、3年生のほとんどが部活動を引退しました。当時、私はサッカー部の顧問をしており、部員には学校の番長格であるA君がいました。A君は感情のコントロールが苦手で、練習や試合中に他の生徒に喧嘩を仕掛けることは日常茶飯事でした。そんな彼が引退後、しばらくして私にこう言いました。「来年度から俺も社会人になるから、もうやんちゃを卒業する(標準語にすると、こんな感じです)」。それから数か月後、敬語だけでなく「ありがとうございます」と言えるように変わったA君。卒業式後のHRを終え、担任に花束を渡して「あの時はすみませんでした」と言っていたA君。他の生徒も同様に、6月頃を境にして言葉遣いや態度が見違えるように変わっていきました。

中央高校3年生のみなさんは、次の進路(受験合格)に向けて日々勉強に励んでいることでしょう。そんな君たちに言っておきたい。学生がやるべき一つに学力向上があるが、「学力向上=偏差値(成績)アップ」と勘違いしないように。高校卒業後、社会人においても自分の弱さを克服し、自分の能力を高めていく必要はあります。貴方だけでできることにも限りはあります。今もこれからも周囲の助けは必要となるでしょう。悪い点を指摘し、良き方向に指南してくれる人も必要です。そのために、学び成長を継続できる人として『謙虚さ』を身に付けておくことが大切です。日々、学びに生きている人、それが学生です。謙虚さは、「ありがとうございます」「すみませんでした」といった言葉に表われます。それが、米どころの豪雪地帯で私が学んだことです。  
(301HR 担任)

\*\*\*\*\*

農林水産省の資料によれば、令和3年の日本の食料自給率は38%、世界ではカナダが200%以上、アメリカ、オーストラリア、フランスが100%を超えています。日本では、農業従事者の減少と高齢化が進み、今後さらに自給率が低下することが予想されます。食糧難も非現実的ではないかもしれません。飽食日本の食のあり方について、本気で考える必要があります。先日テレビ番組で、日本のお米が世界で人気になっているという話題が取り上げられていました。その番組では、フランスのパリでおにぎりが一個500円以上で売られていました。具が入っていますし、日本と同じように炊くために、水も日本のものを輸入して使っているかもしれません。しかし、いくらパリの物価が高いとはいえ、500円もするおにぎりを買う人がいるのかと疑問に思いましたが、健康食志向もあって人気があるそうです。日本食ブームにより、日本酒を作るための米が不足しているというニュースを何年前に見たこともあります。需要があっても作る人がいないという現実があるようです。

現在、麦が黄色く色づいています。実りの時を表す「麦秋」は夏の季語です。間もなく田植えも始まります。毎年通勤途中に、きれいに水の張った稲田を眺めながら、水資源の乏しい国の人にとって、この風景はどのように映るだろうかと考えます。  
(301HR 副担任)

# 三年学年だより

No. 3

6月号

令和5年6月発行

302HR

## ～ 日々の積み重ね ～

少し前まで、私が松葉杖をついていたのをほとんどの人が知っていますね。3月中旬に行われた駅伝大会に出場した後に左足首付近に痛みが出始め、病院で診察を受けたところ「疲労骨折」との診断を受けました。

(見た目のとおり)骨や筋肉に自信があるタイプではありません。腕、肩、鼻など、上半身は幼い頃から骨折や捻挫が頻繁にありました。ただ、歩くことが好きで下肢に関してはほとんど怪我をしたことがなかった自分にとって、今回のことは少しショックでもありました。

しかし、ここ数年の生活を振り返ってみて、改めて「起こるべくして起こってしまったこと」と痛感させられています。20代、30代前半までは、朝の時間を中心に定期的にジョギングをする習慣があり、機会があればスポーツレクリエーションなどにも積極的に参加していました。若さと適度に運動する機会が、自分の身体を支えていたのだと思います。ところが、(様々な環境の変化もあって)この十数年で走ることを習慣化できなくなり、また運動する機会も激減してしまいました。アラ○ィフを迎えての体力低下にも拍車がかかったところで、4年ぶりに開催され出場した駅伝でした。準備期間は1か月弱、途中体調を崩してしまった時期もあり、また練習時間も仕事終わりの深夜手前。医師や周囲の人たちからも「一番疲労がピークの中で本番を迎えた」と言われました。本番はチームメイトの頑張りに刺激を受け、いつも以上に力を入れて走ってしまい無理をしたかなとも思います。結果、骨折という状況に至ってしまいました(T\_T)

結果や成果を残すことは、普段からの積み重ねがあって実現が可能になります。みなさんのセントラルマラソンも、十分な準備期間があって完走や各自の目標を達成できたのではないかと思います。疲労はあったでしょうが、身体が壊れるほどのことはなかったはず。最後の大会で悔いを残さないように、部活動では日々の練習で技術を磨き、仲間と切磋琢磨し合っただけで励んできたことなのでしょう。けがを防止するための十分なケアを実行して来た人もいます。また、本番を想定した時間帯でトレーニングする回数を増やした人もいます。今回の私の状況は、そうした積み重ねが明らかに欠けていました。また機会があるのなら、反省を生かした準備をしていきたいと考えています。

さて、気になるのはこれから受験という山に向かって歩みを進めようとしているみなさんの生活です。学習の積み重ねにおいては、改善が必要な人もいますね。授業中の居眠りがなぜダメなのか? 入試が実施される時間帯は、夜中ではなく昼間ですね。その時間帯に頭が働いている状態でないと力を発揮できません。休日の学習も、できるだけ明るいうちに行うのが理想なのはそうしたところとつながっています。今回の私のように無理やり仕上げようとせず、日々の積み重ねで進路希望を実現させましょう(´\_`)☆ (302HR 担任)

\*\*\*\*\*

あと数年で還暦を迎える年齢になり、今までの生活を振り返ると、楽しかったことも苦しかったことも、大学生活・仕事についてよりも、家族との生活と高校時代についてのことが多く思い出されます。

今、皆さんは高校最後の一年を過ごしています。何事にも、ひたむきに取り組んでいますか? 学習や学校行事、部活動さらには私生活における生活は充実していますか? 人生は、やり直しはできません。あの時、もっとこうしていたらと思っても、人生を修正することはできても、やり直すことはできないのです。後悔しないためにも、今できること、今しかできないことに全力で取り組んでほしいと思います。

「自分」を、「今」を大切にしてください。いろいろなことに挑戦し、成功させることはもちろんですが、たくさん失敗してください。失敗は、人間が成長するための一番の栄養だと思います。何事にも恐れることなく挑戦することが、今の皆さんには必要です。挑戦しなければ、成功もなければ失敗もありません。高校時代は、何に対しても挑戦しましょう。

やろうか、やめとこうか、迷ったときのために、最後に恩師の言葉を贈ります。

【迷ったらGO!】

(302HR 副担任)

# 三年学年だより

No. 4

7月号

令和5年7月発行

303HR

## ～勝負の分かれ目～

皆さん想像してみてください。80人の選手が一斉に50m走を行い、上位40名が「合格」という競技があるとし、(実現できるかどうかは別ね)。要するに倍率は2倍です。合格者の最後である40番目の選手のタイムと、あと一步届かなかった41番目の選手のタイムの差はどれくらいあると思いますか？ おそらく0.1秒も開くことはないでしょう。「0.01秒」、もしかしたら「0.001秒」の差かもしれません。しかも、この順位の周辺には多くの選手が密集していると思われます。つまり、合格と不合格の差は文字通り紙一重です。では、その差を埋めるのに必要なことは何でしょうか。短距離走であれば、スタートの切り方やフォームの改善という技術的な側面、継続して練習するという体力的な側面、何とでも勝つてやるという精神的な側面が考えられると思います。(サッカーや野球のように、チームプレイが必要な競技については、他の要素が絡んでくるでしょう。) このことは勉強・受験についても同じようなことが言えるのではないのでしょうか。おそらく合否の差は「1点」と思われます。私が過去に受けもった生徒には、傾斜配点の都合により、「0.25点」足りなくて涙をのんだ生徒もいました。この学校の生徒の中にも、合否の当落線上で勝負することになる生徒も出てくるでしょう。このわずかな差を埋めるのに必要なことは何でしょうか。当たり前ですが、毎日の学習です。県総体も終わり一区切りついた中、切り替えて学習時間を増やすこととなります。本気で合格を目指せば、平日でも一日5～6時間の学習は必要でしょう。膨大な知識を身に付けて応用力に繋げていく「技術的」な側面、長い時間学習するという「体力的」な側面を、今後の学習で身に付けていきましょう。課題が出なかつたり授業中寝たりなどは論外です。苦手な教科や嫌いな教科にこそ手を付け、最後までやり切る「精神的」な側面もいりますよ。また、字をできるだけ丁寧に書くことも必要でしょう。汚い字は読んでもらえません！ でも一番大事なのは、毎日規則正しく生活し、当たり前のことを当たり前にする生活リズムだと思います。身の周りの整理整頓も大事です。環境は人を作ります。普段やっていることを、試験本番で「普段どおりの力」を発揮するために必要な要素です。まさに、「凡事徹底」です。

もう一つ。担任や授業の担当の先生の一言一言を信じてみてください。受験を乗り越えた人生の先輩の発言には重みがあります。私も高校生時代に救われました。高校3年当時、志望校を目指して受けたセンター試験、苦手な文系教科が足を引っ張り、目標点までは届かずでした。しかし、副担任で進路課長だった先生が、「オープン模試でA判定が出ていれば、絶対合格する」(私個人に向けた言葉ではありませんが)と言われました(今思えば、根拠なんかない発言ですね)。何故か志望校のオープン模試でA判定を取っていたので、その言葉を信じて実際に受けたら、逆転できたのか合格することができました。あの発言がなければ、私の人生は変わっていたかもしれません。先生の言うことを信じてみることも必要でしょう。

皆さんの頑張りに期待します。

(303HR 担任)

\*\*\*\*\*

それまでワープロしか触ってこなかったのに、仕事を始めるとすぐに「これからはパソコンを使えなければならない」と先輩から言葉をいただき、学んだ。でも「インターネットが、クラウドコンピューティングが、」と進化は止まらない。また、大学入試で、AO入試が導入され始めた時に「多様な入試方式を学べ」とまた先輩から言葉をいただいて勉強した。なのに、もうそのAO入試はどこかへ去ってしまった。次はどんな方向に進むのか、と考えるとちょっと怖気づく。



こうなってくると思うのは1つ。「生きている間は、学ばなきゃ。」ということ。近い将来、新しい職業も出てくる。教員の仕事が激変していくように、職業名は同じでも求められる力は変化する。その時、人は学ぶことを求められる。「勉強は何のためにするのかと問われたら、私は『人生を豊かにするために学んだよ』と答える」とおっしゃった恩師の言葉を思い出す。今はその学びの土台作りの時。3年生が学ぶその先に、それぞれの豊かな人生が待っていればいいな、と思う。Have fun and learn now. (303HR 副担任)